むさし同窓会

編集発行
武蔵野市境４－13－28
都立武蔵高校
同窓会編集委員会
（電話武蔵野(51)4554番）
印刷所　三幸印刷社
武蔵野市境３－１－10

総会　５月９日

母校を離れて開催

――市ヶ谷ヴークビルで

同窓会総会が、初めて母校から離れて開催されることになった。母校ベッタリの今までから、少しは大人になって、同窓会としての立場をしっかりふんまえ、第一歩を踏み出そうとしている。皆様の積極的な参加を願っています。

（詳細は下段のお知らせの欄をご覧ください）

編集局よりおねがい

次号からはもっと広範囲の会員の方々から取材いたします。特定の方に記事を依頼することも考えられますので、その際にはぜひ積極的に御協力下さい。

転退職された先生方

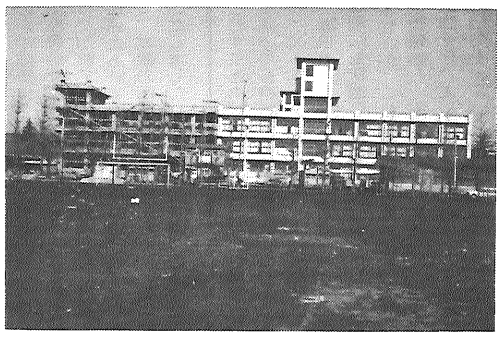
狩野和子先生	数学科	23年在職
藤本　、先生	体育科	7年在職
樋口久友さん	事務	6年在職

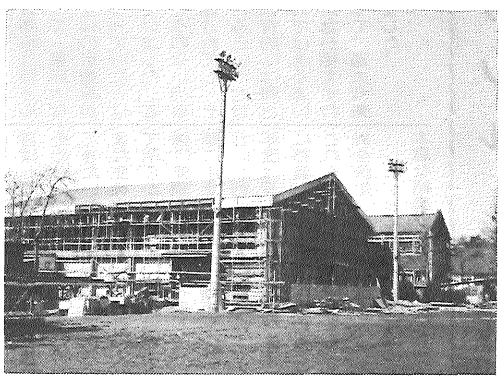
生れかわる武蔵

――校舎・体育館鉄筋に――

旧校舎が全く姿を消した。暗くて、冬には隙間風。春には、砂ぼこり等々、さんざん悩まされた。戦時中の校舎が改築されることは、母校の一つの発展であり、喜ばしいことなのであるが、何か一抹のさびしさが心の中をよぎる。最後に残された南側校舎の、西側半分の跡には、今までのものよりは、二まわりも大きな体育館と、四階だての校舎が、そして体育館の跡には、後年プールが建設されるとのこと、前年の校庭、コートの整備とともに外装は現代的な高校に生まれ変わった。

さて「林を出でて、林に入り」の頃の素晴しい環境が残されているかどうか……。







小笠原の思い出

学校長　有馬敏行



忘却というベールを通して、過去をふりかえると、苦しみも懐しい思い出となるものだ、と痛感いたします。それが小笠原の思い出であります。

一、返還式のころ

ＬＳＴ（海上自衛隊の揚陸艦）で小笠原父島の二見湾の白砂に、「ざ、ざ」と乗りつけ、開いたへさきのとびらから砂の上に第一歩を踏み出したときの強烈な印象は忘れられません。昭和四十三年六月二十三日の朝六時頃でした。うぐいすが鳴いていました。島民が一数名われわれを眺めていましたが、その島民は背が高く、色が黒く、目が青い人が何人かいたことも印象に残っています。子どもたちも目につきました。男の子はアロハシャツ、女の子はミニスカートで、「混血だな」と感じました。その子どもたちに、英語で話しかけると、答えは日本語ではねかえって来たのにはびっくりしました。しかしその日本語は英語混りのチャンポンでした。

What grade are you in ?「きみ何年生」ときくと「ミーは七年生だよ」と答え、「ユーは何のティーチャーかい」と問いかえしてきました。

学校は上陸地点からすぐそばの海岸近くの芝生にある白ペンキぬりの美しい建物でした。校門も運動場もない。日本の「学校」のイメイジとはだいぶかけはなれたものでした。学校の入口の前に旗をあげるポールがあり、その下の土台のコンクリートに銅のプレートがはめ込まれており、ADMIRAL RADFORD ELEMENTARY SCHOOL, CHICHIJIMA, BONIN ISLANDS と書いてありました。ボニーアイランド、父島、ラドフォード提督小学校という名前です。米人の先生が三人で、小中学校児童生徒およそ六十人を複々式授業（三組をひとりの先生が受持つ）で教えていたこともわかりました。われわれは校長以下八名の教師団でやって来たのですが、それでもたりないと思っていたのに、米軍時代は三人の先生とは、どんな授業をやっていたのだろうと、想像もつきませんでした。英語（米国としては国語）中心に教え、実技（音楽、図工美術、理科の実験、技術、家庭）などはほとんどやっていなかったことがわかったのは学校が始まってからでした。

二、離島苦と趣味

コバルト・ブルーの海と空。一年中咲いているハイビスカス。豊富な魚。いつでもできる釣……。こんな点ばかりあげると、「小笠原とは何て良いところだろう」と想像するのは当然です。たしかに小笠原は美しい、公害のない島です。しかし、「美しい。ハワイ以上だ」とは、短期滞在の調査団などの、いわば旅行者的な人々が小笠原の第一印象を語るときのことばであって、半年、一年二年と長期の生活をする者にとっては、この島の美しさは毎日の平凡な風景にしかすきません。長期生活者は単調と孤独を切りぬけるために、さまざまの工夫をします。

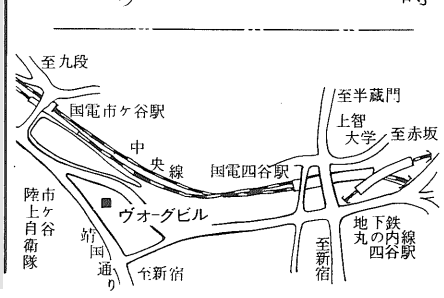
釣りは誰でも最初に試みます。好きな人は比較的長く続きますが私のように下手な者は、「暇な時はいつも釣り」という生活には耐えられません。桑の根をけずってみたり、貝や石を砥石でみがいてみたり、山や海岸を歩いたり、碁や麻雀に興じたり、絵をかいたり、俳句を作ってみたり、生活を多彩なものにするためにいろいろやってみました。厩の二十六度線（北緯二十六度以南は頭がぼける）と一度しかちがわない北緯二十七度の小笠原の父島では、読書――特にむずかしい書物を読むことはができて、長続きしません。四季の区別も判然とせず、九月には温度三十度以上、湿度九〇近く、という気候が続くこの島では、家の中にこもって読書や書き物に時間を過すことは適さないようです。

仕事と趣味の調和を保ち、レクリエイションの工夫を計ることが南海の離島の生活には特別たいせつです。合宿状態の共同生活をしていた我々は、レクリエイションの施設もなく、同じ風景に取り囲まれ、同じ人間の顔ばかり眺めて暮す小笠原第一年目の生活の苦しさを「趣味を生かす」ことによって克服しようと努めました。趣味は生活に変化を与えてくれました。

おしらせ

同窓会総会

日時　五月九日（第二日曜日）午後一時～四時
会場　市ケ谷ヴォーグビル十二階　大ホール
会費　五〇〇円（一部同窓会負担）
主旨　但し新会員は不要
議事　新会員歓迎・会員親和
　　決算・予算報告　承認
　　新役員選出
パーティーです。大いに食べ、飲み歌い、おどりましょう
準備万端整えてお待ちしています。



音楽祭中止

今年から生徒会の手で

——合唱コンクール

昭和三十六年から続いてきた音楽祭・合唱コンクールが、昨年十周年を迎えたのを一区切りとして、一応音楽科主催の音楽祭、合唱コンクールは終了した。今年からは、生徒会が主催して、装いを新らたにスタートを切ることになった。

思えば、音楽設備の全く悪い旧体育館からスタートし、杉並公会堂で二年間、新宿厚生年金大ホールで一年、そして八王子市民会館に場所を移して、昨年まで、私達卒業生の良き高校生活の想い出になっている音楽祭であった。

今年からは、生徒会の主催。十年間積重ねられてきた伝統の上に、高校生らしい、ユニークな音楽祭が実現するものと期待している。そして、我々が学んだ、合唱する楽しさ、音楽を自分達の手で創造する素晴しさを、絶やすことなく、さらに大きく育ててほしいと思う。

十年もの長い間、音楽会を通して、音楽を選択しなかった者も含め御指導くださった、今井先生に心から御礼申し上げます。

音楽祭中止について

―御礼のことば―

芸術（音楽）科　今井正五

昨年の音楽会・合唱コンクールは、期日が変更になったために皆さんに大変ご迷惑をおかけして誠に申訳なく思っています。「折角日曜日にいったのに…」というお叱りのお手紙をいただいて恐縮しました。しかし、当日は期日変更にもかかわらず多数の皆さんがお見えになり、その上沢山のご寄付をいただいて、御盛様で花や垂幕でステージを飾ることができました。それは今から思えば教科主管最後の音楽祭にふさわしく、皆さんに祝福されて誠に幸せであったと思います。本当にありがたく、心から御礼を申しあげます。

〃

全校合唱コンクール――かつて十余年前、おおげさにいえば「自己を発見する」という目標をたてて、皆さんと共に二カ年の準備期間を経て発足した――は、以後伝承過程の中で時代の変化を見せながらも、大勢は、「クラシカルなものの中に価値を認めようとする創造性豊かな生徒諸君」によって――見事に成長し、武蔵の伝統として立派に定着いたしました。殊に第九回音楽祭が当時学校紛争中にもかかわらず、一クラスを除く全員の参加によって実施されたことは、正に定着の具体化を示したものといえましょう。

〃

しかし、教科にとっては音楽祭の責任は大きく、実施上不測のミスもあって皆さんに大変ご迷惑をおかけしたことと思います。したがってそれは決して坦々たる道ではなく、教科の立場から簡潔にありのままを敢えていえば、「音楽祭は運営・内容ともに問題がある」という批判に加えて、ごく少数の「意義を認めない人たち」や、目的意識の欠けた、いわば「発展性のない人たち」等による非論理的ないしは論拠不明とでもいうべき核心を離れての反対論があって、意志の統一や真の協力態勢を得ることができなかったことは事実であり、教科にとっては誠に不本意な次第であったといわざるを得ません。したがって音楽祭は皆さん大多数の協力によって一見盛大な形には見えても、全体の足並みが必ずしも完全にそろっていたとはいい難い面をもっていました。このような足並みのそろわない行事は、たとえ例年実施されても、それはただつづけているというだけのことであって、教育的には殆ど無価値にひとしいのではあるまいか。――そういう疑念が絶えずわたしの心の中にあって、過去音楽祭は実施されてきました。

〃

このようにみてくるとき、教科としては全校合唱コンクール十周年終了は一つの機会であり、いわばこれを反省の転機として、音楽祭のもついわゆる諸問題について深い検討と良識ある建設的批判が展開されるよう、期待したいと考えます。

そのために、教科は次年度を、「反省の年」として一旦これを中止して、あらためて音楽祭という伝統が果そうとしている役割は何であるか、そして伝統とは現在にどういう意味をもち、どういう価値があるのか、等を学校全体の問題として考えてみる必要があり、また一方では、それが真に皆さんのうちたてた伝統を生かす所以でもある、という御点に立って次年度教科主管の音楽祭は、学校の承認を得てこれを中止することにいたしました。

〃

しかし学校としては、教科の提言は一応は認めながらも、音楽祭そのものが長く皆さんに支持されてきたいわば歴史的行事であり、また生徒会アンケート調査によって明らかなように、現生徒諸君の強い要望がある点を考慮して、「一挙に中止することは好ましくない」という判断のもとに協議の上、次年度は音楽祭執行の責任を生徒会に移管して、生徒部指導のもとにこれを統行する、という新しい方針を決定いたしました。

したがって教科としては誠に不本意な結果ではあっても、今後の音楽祭は学校の新方針によって実施されるものと考えます。

〃

以上の経過を経て、わたしは今教科主管の音楽祭を終えるにあたり、あらためて過ぎ去った十年の歳月をふりかえるとき、音楽祭の責任は大きく、それは決して短い期間であったとは思えない。しかし、なぜか不思議にも苦悩はすべて忘れ果てて、杉並、厚生年金、八王子……と、楽しかった思い出だけが昨日のようによみがえって限りなくなつかしい。それは少し誇張していえば、もしも地球が――昔を今にひきもどすことができるものであれば、わたしは夢でもよい、もう一度皆さんと一緒に、あのなつかしいステージに立ってみたいとしみじみ思う。

さいわいにも第八回音楽祭が、四十二年度卒挙の長谷君たちによって八ミリ映画になっていますので、拝借してコピーをとり、「かけがいのない記念」として大事に保存したいと考えています。

〃

最後に、長い年月にわたって絶えず変わらざるご理解とご支援をいただき、ご迷惑をおかけした諸先生、ご父兄及び皆様方に対して心から御礼を申しあげたいと思います。長い間本当にありがとうございました。あらためて御礼を申しあげる機会を得て、何よりうれしく申います。ご健康とご発展を祈ります。

校舎の改築と環境整備

事務長　鴇田正雄

さきに校舎改築等についてご報告いたしましたところであります が、その校舎の改築も着々進行しております。昭和45年度は校舎の一部（普通教室4室、教材室、生徒指導室等675㎡）と体育館826㎡、校庭南側の防球ネットが出来ました。これで校庭の外にボールが飛び出して自動車のガラスを破ったり、通行人に怪我をさせることもなくなりほっとしましたが、何分にも教室の不足、生徒部室等は解消されず、永年待望のプールもなしという状況でしたのでPTA、同窓会、定時制の皆様の応援をいただいて請願・陳情等をいたしました結果、46年度末には引続き職員室、会議室、保健室をはじめとする管理室の完成、生徒会部室、（鉄筋3階建）とプールが建設されることになりました。あと残すところは北棟の西側にあります現美術室のある木造2階建校舎を改築して普通教室4室、美術室、家庭科等の特別教室4室の建設というところまでになりました。しかし、何分にも授業を継続しつつの改築は、こわしては建て、建ててはこわすことの繰り返しのため、校庭はいつも材料置場や作業場になり、又トラックやブルドーザー等が毎日出入りして騒音をたて、お義理にも快適な学習環境とは申せませんが、これもあと2年すれば校舎建築も一応完成という見通しが強くなりましたので、それまでご協力をお願いする次第であります。

武蔵を卒業して

第23期卒　末永明子

卒業したというより追い出されたという感じである。私はもっともっと武蔵にいたかったのに、なにしろ我々が出て行かねば新入生が入ってこられないのだからしかたがない。武蔵というShelterの良い面も悪い面も、今の私にはただただ懐しく、欠点を指摘してどうのこうのとは言いたくない。武蔵の親切さに慣れきった者には外界は初めの頃つらいようである。現在武蔵生でいられる幸せ（？）な人々は、今のうちが花だから、思いきり勉強にスポーツに親睦に励むべきだと思う。

我々23期生はあの学園紛争を経験してきた。深く考え悩んだ人、人まかせにしてのん気に構えていた人、それぞれが今あの嵐をふり返ってどう思うかは様々であるがあの経験はすべての人にとって有意義であったと私は信じたい。改革されたものがプラスであるかマイナスであるかはもう一・二年たたないとわからないかも知れないそれは現在のそして未来の武蔵生の努力次第であるが、同時に我々卒業生も責任をもって、そうした武蔵生の努力を見つめ、共に歩んで、より良き学舎としてはぐくんでいきたいと思うのである。

パラソル

20期　おさきけんし

戦い疲れた勇者のように
あなたは再び夢の中からうかびあがり
力つきて沈んでいってしまわれた
金木犀がオーロラのように匂います
わたしはパラソルをさして歩きます
かってあなたのことばのひだを
唖のわたしが焼けただらせました
そんなあなたのいらだちが
あなたをかわいたまま
死なせてしまったのでしょうか

わたしはパラソルをさして歩きます
あなたの胸骨のように
このひらかれた骨はなんでしょう
そこからしたたるようにまっすぐおりて
わたしにささえられているこれは
なんでしょう
もしもあなたが自分のことばをさえ
信じられなくなったとしても
わたしたちふたりきりの夜を
黙ってすごすことにたえられたでしょうか

もう日輪のように輝やいた
わたしの乳房はありません
ただ暗いかげりをはらませながら
わたしはパラソルをさして歩きます。
この哀しげにひらかれた骨の
だんだらの中を
まぶしくもないのにうつむいて
さらされた骨をささえて歩きます

旧友

同窓会会長　若井博



夕餉のひととき、テレビを見ていると電話が鳴った。

A君「もし、もし若井君かね？」
私「はい、若井ですが」
A君「俺だよ、解かるか？」
私「はア」（やや生返事）
A君「Aだよ」
私「Aさん？――えーとどちらのAさんでしたか？」
A君「馬鹿、俺だよ、武蔵高校の時のAだよ」
私「やアー、やア、やア」
A君「思い出したようだな、然し久し振りだなア」
私「本当だなア。13年振りか！どうしていたねエ？」
A君「うん、まあまあやってるよ二人のジャリの父親だよ、上の奴は、今年から小学校だ」
私「それは、それは」
A君「ところで案内状（同窓会総会の案内状）貰ったよ、まだ同窓会のほうやってんのか？」
私「うん、まあねえ」
A君「ご苦労さんだネ、ところで今年の総会は市ケ谷のええと」
私「ヴォーグビル」
A君「――だってね。随分デラックスなところでやるんだねえ。相当金がかかるだろう？」
私「うん、思ったより安く上るよ」
A君「でも、五百円会費位で出来るのかね？」
私「うん、不足分は会の方から補塡するから大丈夫だよ」
A君「同窓会にそんな金があるのかね？」
私「うん、毎年卒業の時に、同窓会の永年会費として納めてもらった金を積み立てておいて、総会や名簿作製やいろいろな行事にあてているんだ。また将来同窓会では何かまとまった事業を行なう場合のための資金積み立ても今行なっているんだ」
A君「成る程、ところで今年は、是非総会に参加してみたいんだが、古い連中は来るかね」
私「うん、どうしても新しい会員が毎年多いようだが、それでもここ数年来の傾向としては、古いメンバーもかなり多く参加してくれるようだよ。きっとお子さんたちもある程度大きくなり、余裕が出来てきたせいだろうね」
A君「成る程ねえ、先生方も見える？」
私「うん、毎年多勢の先生が参加して下さるよ。会場のあちこちで、先生方と同窓生が談笑している風景は、ほほ笑ましいねだから、総会をクラス会の集合場所にするグループがこの頃は多くなってきたよ」
A君「成る程、では今年こそは、友達を誘ってかならず参加するよ。その時昔話でもしようよ」
私「懐わしのメッチェンにシークレット・ラブしたころの昔話をなっ！」
A君「同感」
私「総会は、五月九日（第二日曜日）の午後一時からだぞ、間違えるなよ！」
A君「了解、じゃあ」
私「じゃあ！」

旧友との話に、ふと校庭の桜の木を思い出した。

編集後記

やっとでき上がった。

毎回のことながら、苦しい一カ月、記事不足、スタッフ不足に悩まされながら、何とか発行できてしまう不思議さ…アンテナをもっと高く張ってみなさんが、どんな情報を望んでいるのか、敏感にキャッチして、より楽しい新聞を作るよう努力したい。